



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

糖尿病治療と就労の両立

〔当法人理事〕

三菱京都病院

中野 忠澄 〔医師〕

働き盛りの世代の中心となる40歳代の人で、糖尿病を強く疑われる人のうち継続的に治療を受けていない人の割合は男女とも6割前後(2012年国民健康・栄養調査)と過半数に及んでいる現実があります。さらに、実臨床とくに外来診療においては、老若に関わらず、糖尿病治療の傍ら、就労を両立させることに困難を感じている、働く糖尿病患者さんが少なくありません。

「病気の治療と就労の両立」が難題であるのは、いうまでもなく日々の経済生活が最重要である以上、就労が優先され、糖尿病のような生活習慣病への対応が後手後手になるためです。早期治療が遅れた結果、血管障害や重症感染症などによって臓器機能不全や喪失を招き、健康寿命の短縮、不幸な転帰をとることも珍しくはないことはご承知の通りです。こうした現実に対し、「治療と就労の両立」に関して、2011年独立行政法人 労働安全研究機構の勤労者医療フォーラムの中で議論され始め、2016年2月厚生労働省から「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」が示されました。糖尿病学会でも、この「糖尿病治療と就労の両立」は、同年の京都での年次学術集会において初めてシンポジウムで採りあげられ、以来3年連続してシンポジウムが組まれてきました。このほか、糖尿病協会はもちろん、日本医師会、地方自治体、マスコミ・メディアなどの関係者によって、「糖尿病治療と就労の両立」支援・実現のため、問題提起、実態調査、問題点と課題、それらに対する取り組み等々が発表され議論され、それらに基づき、労働安全研究機構から支援モデル事業として、糖尿病分野における「治療と就労の両立マニュアル」(<https://www.johas.go.jp/Portals/0/data0/kinrosyashien/pdf/bwt-manual-dm01.pdf>)が、他のがん、脳卒中やメンタルヘルスの分野と並んで、作成されています。糖尿病の両立支援の目的は、主に定期的な外来通院を促し業務多忙等による治療の自己中断を予防する治療継続支援とより良い血糖管理にあり、さらに両立支援手帳の普及・支援コーディネーター養成などを通じて支援を目指しており、今後の一つの道しるべになるものと思われます。しかし、現実には遭遇する患者さんに適用するには、各医療機関において通院中断・脱落歴や、職業も含めた個別事例の特性にも配慮した対応や情報共有・連携が求められ、この課題における重要な点であると考えられます。

今後、さらに超高齢社会の進行と生産年齢人口の減少が加速し、この「糖尿病治療と就労の両立」という難題は、一層切実なものになるものと思われます。現在、糖尿病診療は、EBMのもと種々の新規治療薬開発、デバイスの進化と診療現場への供用、NDBを用いた研究など目覚ましい進歩を見せているとはいえ、私たちの診療や療養指導の基本は、私たちが一人ひとりの生身の患者さんとのインフォームドチョイスを含む対面・対話からなる診療であることには変わりがなく、その中に切実な課題を抱えた患者さんがおられます。多彩な方々が集い、糖尿病診療・療養に研鑽を重ねる私たちの「臨床糖尿病支援ネットワーク」は、「糖尿病治療と就労の両立」に対し、今後どのように取り組み、支援していくことができるのだろうか、ネットワークの真価が問われています。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 糖尿病網膜症について正しいのはどれか、1つ選べ。(答えは7ページにあります。)

1. 糖尿病3大合併症の中で最も早く出現する
2. 血漿成分が組織内に沈着して、軟性白斑が生じる
3. 増殖前網膜症は病変が網膜内に限局される
4. 汎網膜光凝固療法は単純網膜症から適応である
5. 硝子体手術は血管新生緑内障の治療に有効である



報告

第4回糖尿病とWell-aging研究会

日時:平成30年2月24日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

平成30年2月24日(土)に国立市商業協同組合さくらホールにて「第4回糖尿病とWell-aging研究会」が開催され、39名の方が参加されました。



曾根先生

第一部では、貴田岡正史先生の司会のもと、「アンケート調査による残薬の現状」と題し、熊倉医院 熊倉淳先生に残薬状況の調査結果とその現状に対する対策についてご講演いただき、「新たに始まった老年栄養学」と題し、駒沢女子大学 西村一弘先生に老年栄養学の新たな研修プログラム内容と日本での活用についてご講演いただきました。第二部では、植木彬夫先生の司会のもと、「ビックデータ解析に基づく糖尿病の診療エビデンス」と題し、新潟大学 曾根博仁先生より、実臨床での有益なツールとしての医療のビックデータベースという視点からさまざまな解析結果の活用方法をご紹介いただきました。糖尿病診療の標準化に加えて個別化にも役立つ点、個々の患者の臨床データと大規模臨床研究の解析結果とを照らし合わせた合併症の予測や予防等をご講演いただきました。最後に、当研究会の代表世話人である植木彬夫先生から、「糖尿病とWell-aging研究会」では、これからも高齢糖尿病患者における半歩先の諸問題を考えていくとの閉会の辞をお話いただき、盛会のうちに終了しました。

報告

第15回西東京インスリン治療研究会

日時:平成30年2月24日(土)

場所:吉祥寺東急REIホテル

第15回西東京インスリン治療研究会は、「食事から眺めたインスリン療法」をテーマに2月24日(土)吉祥寺東急REIホテルにて開催されました。

一般演題では、栄養士の視点から杏林大学医学部付属病院・鈴木絹世先生に『カーボカウントを用いた栄養指導の実際』との演題のもと、糖尿病患者さまに対する栄養指導の実際について実践的な話題も含めてご発表頂きました。また、杏林大学医学部付属病院・七条先生と東京医科大学八王子医療センター・池内先生には、1型・2型糖尿病それぞれで治療に難渋した症例について発表をして頂き、その後の質疑の時間では参加頂いた多くの糖尿病専門医の先生方より活発なディスカッションを展開して頂きました。

特別講演では、京都大学大学院医学研究科・原島伸一先生より「インスリン療法のエッセンス」との演題のもと、昨今選択肢の幅が広がったインスリンの各種使い分けについて、患者ベネフィットの観点からも非常にわかりやすくご講演を頂きました。特に、インスリン療法において最も重要である「低血糖を起こさずに目標値に向けた血糖コントロールをする」為の実践法については自験例も交えてご講演頂きました。また、杏林大学医学部付属病院・石田均先生より、「糖尿病食事療法のなかのカーボカウントの意義と正しい糖質調整食」との演題のもとご講演頂きました。

ご講演後には特にコメディカルスタッフの皆さまから多くのご質問を頂き、「明日からの診療にすぐに役立ってます」と喜びのコメントも頂きました。

今回は計84名の医師・コメディカルの方々にご出席をいただき無事閉会致しました。次回は2019年2月23日(土)に吉祥寺東急REIホテルにて開催予定です。糖尿病治療薬が多様化する現代におけるインスリンをはじめとする薬剤の役割について再度検討をしていきたいと考えております。次回も多数の医師及びコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。



報告

第21回南多摩糖尿病教育研究会

日時:平成30年3月8日(木)

場所:パルテノン多摩

[当法人理事] 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]



3月8日(木)、第21回となる本会は「基礎からわかるフットケア」をテーマに開催し、64名の方々にご参加いただきました。特別講演は日本医科大学多摩永山病院 形成外科 部長 藪野 雄大先生より「糖尿病における足病変～早期発見とケアも含めて～」と題し講演をいただきました。「整形外科と形成外科の違いは血が出ているかどうか。血が出ていれば形成外科へ紹介を」といった話題より始まり、外用薬の種類・注意事項について詳細を教えていただきました。「ワセリンはふたをする役割。高齢者のように元々皮膚が乾燥しているとふたをするだけで潤わないので注意」などです。最後

には、通常であれば下肢切断を判断するが、少しでも指・脚を残す努力をしている症例提示をいただきました。患者の治療への取り組みへの意気込み・積極性があれば、そのような可能性を模索する姿勢に我々も感銘を受けました。パネルディスカッションでは、医師:松下隆哉先生、看護師:飯田祐子先生、理学療法士:飯泉亮先生らに登壇いただきました。いかにして患者さんに自分の足に関心を持ってもらえるか、他科に受診のため来院されている際に「足はどうですか」といった問いかけをするなど、診察室だけでなく患者さんに接する医療従事者全員での働きかけについて討議いただきました。

次回は2018年9月13日(木)にて「高齢者糖尿病の食事と運動」をテーマとして、東京医科大学八王子医療センター 理学療法士 天川 淑宏先生による特別講演と多職種でのパネルディスカッションにて開催予定をしております。本会への参加したことがない人でも、どなたでもご参加いただけます。ご参加をお待ちしております！

報告 糖尿病災害対策委員会 第6回医療者向けセミナー

日時:平成30年3月9日(金)

場所:立川市女性総合センターアイム

[当法人評議員] 大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

2011年3月11日未曾有の大災害「東日本大震災」に被災してはや7年が経ちました。1年後の3月から毎年医療者向け災害セミナーを開催して第6回となりました。

講演1は「サバイバルマニュアル第2版のご紹介」として町田市民病院看護師の横内



砂織先生に、昨年できたサバイバルマニュアル第2版を患者さんに配ってもらう際のポイントを交えてご紹介して頂きました。講演2では「サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)」について公益社団法人 東京都栄養士会 会長の西村一弘先生から講演をいただきました。サイコロジカル・ファーストエイド(Psychological First Aid; PFA)は、災害やテロの直後に子ども、思春期の人、大人、家族に対して行うことのできる効果の知られた心理的支援の方法を、必要な部分だけ取り出して使えるように構成したものです。PFAは、トラウマ的出来事によって引き起こされる初期の苦痛を軽減すること、短期・長期的な適応機能と対処行動を促進することを目的としています。共感と気づかいに満ちた災害救援者からの支援は、初期反応の苦しみをやわらげ、被災者の回復を助けます。

パネルディスカッションでは多摩総合医療センター医師の辻野元祥先生、武蔵野赤十字病院看護師の豊島麻美先生、東京医科大学八王子医療センター管理栄養士の和田茜先生、東京医科大学八王子医療センター理学療法士の天川淑宏先生に「災害時に備えた糖尿病療養指導を考える」をテーマに行いました。フロアからも話題提供があり、良いパネルディスカッションでした。

7年経過するとあれだけの災害でも風化してしまい忘れてしまうことが多くなりますが、1年に2度は災害を振り返り患者さんと共に考えていくことが重要であると考えます。これからも市民向けセミナーと共に当該セミナーを続けていくので、多くの医療スタッフの参加をお待ちしております。

報告

第34回武蔵野糖尿病研究会

日時:平成30年3月10日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

平成30年3月10日(土)さくらホールにて、『第34回武蔵野糖尿病研究会』が「糖尿病の死因」と「ライゾデグの多様な使い方」について開催されました。

基調講演は、かんの内科 院長 菅野 一男先生より「ライゾデグの多様な使い方～65症例の使用経験からの検討～」についてご講演いただきました。ご講演では、1. インスリン新規導入、2. BOTからの治療強化、

3. 混合製剤からの変更、4. 強化療法からのステップダウンの4つのお話を患者背景や臨床データを交えながら詳細にご紹介いただき、診療にすぐに活用できるようなご講演でした。

特別講演は、愛知医科大学医学部 内科学講座 糖尿病内科 教授 中村 二郎先生より「日本人糖尿病の死因の変遷と薬物療法」についてご講演いただきました。冒頭では糖尿病治療の目標にもある、健康な人と変わらない日常生活の質の維持、寿命の確保のもとにある血糖のコントロールは、様々な糖尿病治療法の進歩があるが、本当にこれらが合併症・寿命の確保につながっているのだろうか、という問題提起から始まり、様々な臨床データから糖尿病の死因、合併症、治療、歴史、薬剤等、多岐にわたるお話をしていただきました。これからの2型糖尿病薬物療法は、1. 早期からの厳格な血糖コントロール 2. 低血糖をおこしにくく、血糖変動を抑える経口血糖降下薬の早期からの積極的導入 3. 週1回製剤によるコンプライアンスの改善が重要である、これらのことを通じて糖尿病性慢性合併症の発症・進展抑制と寿命の延長ができるのではないだろうか、とご講演をいただきました。当日は37先生方にご参加いただき、質疑応答でも熱心な意見交換がされ大変有意義な会となりました。



報告

第24回TAMA生活習慣病フォーラム

日時:平成30年3月17日(土)

場所:調布市文化会館たづくり

【当法人理事】 代表世話人 かたやま内科クリニック 片山 隆司 【医師】

平成30年3月17日(土)に調布市文化会館たづくりにて、第24回TAMA生活習慣病フォーラムが開催されました。テーマは「1日でわかる日本の糖尿病最新エビデンス～予防・治療中断対策から心血管イベント抑制まで～」でした。

第Ⅰ部 基調講演は、三咲内科クリニック 栗林伸一先生より「J-DOIT1～糖尿病発症予防の視点から～」として糖尿病を予防するためには健診の有効活用、マスコミ情報のフィルター機能、職場環境、家庭環境の重要性をご講演いただきました。第Ⅱ部 基調講演では、立川相互病院 宮城調司先生より「J-DOIT2 ～治療中断させないという視点から～」についてとしてご講演いただきました。糖尿病治療中断患者の特徴を明確にし、その上で電話、郵便物による受診勧奨等、外来治療における工夫、そして社会的・経済的要因を考慮した対策の必要性



をお示しいただきました。第Ⅲ部 基調講演は、東京大学 窪田直人先生より「2型糖尿病の病態と薬物治療～J-DOIT3を中心に～」として、欧米日のエビデンスを踏まえ、2型糖尿病における病態と、それをふまえた薬物治療についてご講演いただきました。最後に、私から3つの講演の総括として 糖尿病の進展抑制・中断対策・合併症予防健康寿命延伸にむけた、チーム医療の重要性を提示しました。

終了後のアンケートにおいても、配布資料が充実していた、すべて興味深いものであった、明日からの診療に生かせる・・・等さまざまな感想・ご意見をいただきました。ほとんどの回答者から“次回も参加したい”という回答をいただく事ができ、当フォーラムへの期待を実感する事ができました。

報告

第18回西東京糖尿病療養指導士認定式

日時：平成30年4月3日（火）
場所：立川市女性総合センターアイム

【当法人理事】 糖尿病療養指導士関連事業担当理事 医療法人社団桜一会 かの内科 菅野 一男 【医師】

平成30年4月3日（火）例年通り、西東京臨床糖尿病療養指導士認定式が実施されました。養成講座受講者数は109名で、その中の89名の方が認定試験を受験されました。合格者数は80名で、合格率89.9%と例年通りでした。認定式には68名の合格者が出席されました。合格者の中では管理栄養士・栄養士が31名と最多で、看護師・准看護師24名、薬剤師16名、理学療法士4名、臨床検査技師3名、その他2名となりました。当法人業務執行理事の植木彬夫が例年通り、合格者一人一人に丁寧なお祝いの言葉とともに認定証を渡したあと、東京慈恵会医科大学名誉教授の田嶋尚子先生の特別講演が行われました。「新しく療養指導士となった皆さんに伝えたいこと」というタイトルで、糖尿病の基本的な病態、治療法から療養指導、患者さんとのかかわりなどについて具体的にお話しされ、参加者の共感を得ていました。

介護職の方を中心に、西東京療養指導士初級講座も実施されていることもあり、介護関係の方は今回受験されませんでしたが、今後は介護にかかわる方の西東京糖尿病療養指導士への参加が期待されます。

【平成29年度認定試験状況】

養成講座受講者数	109名
認定試験受験者数	89名
合格者数	80名
合格率	89.9%

※昨年度受験できなかった受験者を含む

合格者職種	人数
看護師・准看護師	24
管理栄養士・栄養士	31
薬剤師	16
臨床検査技師	3
理学療法士	4
その他	2
合計	80

合格者の声

【当法人会員】 アイセイ薬局 城口 直子 【薬剤師】

私は現在、調剤薬局で薬剤師として働いています。日々、糖尿病の患者さんと接する中で、薬に関すること以外にも、食事や運動、検査値や血糖コントロールに関することなど、様々な質問を受けます。患者さんのお話を聞いていると、糖尿病がいかに患者さんの生活と共にあるかを感じます。毎日の服薬、定期的な通院、血糖や血圧等の測定や記録、食事や運動・・・と日々患者さん自身で気を配ることがたくさんあるなかで、それらをより無理なく患者さん自身が続けられるよう、サポートできたらと思いました。そのためにも、一度、糖尿病の療養指導についてしっかりと学びたいと思い、本講座を受講しました。

養成講座は約4か月、全14回の講座からなります。毎回、テーマごとに講師の先生が変わりますが、現場の第一線で活躍されている先生方のお話はどれも実践的な内容で、大変興味深いものでした。また、講義を通して、講師の先生方が普段どういった想いで患者さんと接しているのかについて知ることができる点も、大きな学びとなりました。今回、認定試験に合格し、糖尿病療養指導士の認定を受けたことは、自分自身の自信につながったと思います。ここをスタートラインとして、糖尿病に関わる様々な人との関わりの中で多くを学び、より一層、知識とスキルを身につけていきたいと思っています。





第61回日本糖尿病学会年次学術集会

平成30年5月24日(木)～26日(土)

東京国際フォーラム

〔当法人会員〕

きよせの森 コミュニティクリニック
塚本 万理子〔看護師〕

2018年5月24日(木)～26日(土)、第61回日本糖尿病学会学術集会が東京国際フォーラム他3会場で開催されました。なんと！過去最大の1万5千人の参加があったそうです。どの会場でも立ち見の大盛況だったと見聞きました。

開催年によって中心的なテーマは変遷してきましたが、今年は「糖尿病におけるサイエンスとアートの探求」をテーマに、シンポジウムや教育講演の内容も深く、セッション也多岐にわたっていました。例えば、SGLT2阻害薬の評価、低血糖を増やすことなくHbA1cを下げるのが期待されるSAP療法(インスリンポンプ)。保険適応になり多くの施設で採用するであろうFGMについてなど大変興味深いテーマが多く取り上げられていました。糖尿病の治療選択肢は増えていくことが予想されているので、我々も益々知識を積まなくてはなりません。指導・説明にあたるスタッフは、算定も含め、施設内のマニュアル作りに意欲的に取り組まれていることと思います。

最終日に学会初の試みであったCDEJの交流集会に参加することができました。「高齢糖尿病患者の災害支援」をテーマに、和田幹子先生が税所先生と座長を、豊島麻美先生が講師をされました。多くのファシリテーターが当ネットワークから選出され、100名以上の参加者と活発なディスカッションが繰り広げられたことはとても誇らしかったです。

私には、学会といえば頭に浮かぶことがあります。それは、防衛医科大学校病院の田中祐司教授との御縁です。田中教授は、医大生、医師だけでなく、私たち看護師の教育にも熱心で、チーム医療を先駆けて実践されていました。その指導を受けたことで、私も糖尿病看護に魅せられることとなったのです。学術集会に参加することで初心を思い出し、この御恩を、チームや愛すべき患者さん方へ還元できるように「今後も頑張りたい！」と思う気持ちを新たにできた3日間でした。



今回の学会中、特に興味の湧いたポスターセッション「CKDstage3bを合併した糖尿病足壊疽患者の栄養管理の経験」について報告します。創傷治癒に必要な推定蛋白量がCKDステージによる食事療法基準を超える場合、通常であれば後者の

基準値(stage3b:0.6～0.8g/IBW/日)を優先し調整されると思いますが、当症例では超越分をHMB、L-グルタミン、L-アルギニンが強化されたアミノ酸配合飲料で補填していました。たんぱく質2.0g/IBW/日まで引き上げた週はBUNが増加し付加量制限を必要としましたが、その際食事由来のたんぱく質を抑えアミノ酸配合飲料は現量継続、最終的に1.7g/IBW/日に調整され以降BUNは正常値内に収まりました。一方Crは介入中上昇することなく、むしろ漸減傾向でした。エネルギーはアミノ酸飲料補填時30～35kcal/IBW/日に設定していましたが、血糖値はインスリン調整にて至適推移でした。結果アンブタは避けられなかったものの独歩で退院できる程度に収まったことから、血糖値・腎機能モニタリング下で創傷治癒に必要なエネルギーと質を考慮したたんぱく質の投与は、腎機能悪化抑止と患肢切断範囲の縮小に繋がる可能性があるかと締め括られました。この発表を受け、ガイドラインに縛られず有害事象改善の優先度を考慮した栄養療法の構築が必要となる場合もあることを学びました。

今学会で生涯2度目となる口演の機会を頂きました。初回時に抱いた緊張感は結局今回も拭えず、震えながらの発表となりました。今回は当院における糖尿病予防啓蒙活動における栄養相談の有用性について発表しましたが、朝一の演題にも拘らず多くの方に聞いていただき、大変嬉しく思いました。



〔当法人会員〕

武蔵野赤十字病院

鈴木 克麻〔管理栄養士〕

第61回日本糖尿病学会学術集会の発表は基礎研究、日常の関わりから大規模研究まで多岐にあふれており、興味深いものばかりです。いずれも示唆に富んだものばかりですが、独断と偏見で2つのトピックスをご紹介します。

まずは、昨年の欧州糖尿病学会で報告され、大きなインパクトを残したJ-DOIT3です。より厳格な治療目標を設定した強化療法群と通常療法群を比較したものです。最終結果は驚くべき内容で、強化療法群は主要評価項目(心筋梗塞や死亡など)を危険因子での補正後24%低下させ、腎関連イベントも32%低下させました。演者の先生によると、糖尿病専門医によって行われたもので、非専門医との治療の質の均一化が課題とのことです。全国各地のCDE-JやL-CDEが、非専門医のもとで質の底上げに関わることで、よりよい糖尿病医療が実践できるのではないかと感じました。

次は、糖尿病患者における重症低血糖と骨折についてです。低血糖は骨折との関連性について報告がされており、SU薬もしくはインスリンを使用している患者さんを対象とした研究が報告されました。結果は、男性、女性ともに他者の助けを必要とする重症低血糖を起こした患者の骨折リスクは高く、男性で2.5倍、女性で1.6倍でした。重症低血糖の頻度が多いほど、骨折のリスクは増加しました。重症低血糖を未然に防ぎ、低血糖による有害事象を避けることが、患者さんのQOLを保つために重要な取り組みであると改めて学ぶことができました。

今年も非常に熱気にあふれた会で、明日からまた頑張ろうとモチベーションをいただくことができました。来年は、仙台です。参加できるように頑張りたいと思います。

〔当法人会員〕
下北沢病院

堀井 剛史 [薬剤師]

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00 / 13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

お悩み解決 《マイページ Q&A》

Q. 年会費や研修会参加費の領収書は出してもらえますか？

A. どちらもマイページより発行できますので、印刷してお使いください。

＜年会費の領収書＞マイページの「年会費入金状況確認」より発行できます。

＜研修会参加費の領収書＞マイページの「その他の入金履歴」より発行できます。



年会費入金状況確認	
年会費の入金状況をご確認いただくことが出来ます。	
山田 太郎様の只今の入金状況	
入金状況	入金済み 領収書
会費の有効期間	2017/04/17~2017/12/31

← ここから発行

入金履歴	
これまでの入金履歴をご確認いただくことが出来ます。	
入金内容	【看護系】第14回西東京糖尿病教育看護研修会 [平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム]
金額	5,000円 領収書
決済方法	コンビニ
入金日	2017年05月15日 19時52分

← ここから発行

※発行できる領収書のお名前は「登録会員名」となります。お勤めの病院名での領収書発行をご希望の方は、マイページからは発行できません。事務局までその旨、お申し出ください。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

- × 一般的には①神経障害→②網膜症→③腎症の順で出現することが多い
- × 血漿成分が組織内に沈着したものは硬性白斑、血管の閉塞が軟性白斑
- × 単純網膜症:病変が網膜内に限局
増殖前網膜症:網膜表層に病変が広がる
増殖網膜症:硝子体内に増殖組織が進展
- × 汎網膜光凝固療法は進行した増殖前期から増殖期が適応
- 硝子体手術は硝子体出血、網膜剥離、血管新生緑内障等の治療に有効

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業
 ☒ 共催・後援事業
 ☐ その他

第31回 武蔵野糖尿病医療連携の会 学術講演会

申込不要

テーマ：『治療困難例におけるブレイクスルー2018』

開催日：平成30年7月21日（土）17:00～19:00

場所：ホテル日航立川東京 3階「アトランティックⅡ」（JR中央線「立川駅」南口下車 徒歩7分）

参加費：医師 1,000円 / 医師以外 500円

問合せ：サノフィ（株）（担当：倉本） TEL:080-6652-6824

詳細資料の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

☆日本医師会生涯教育制度：1.5単位申請中（カリキュラムコード4.10.76）

第4回 北多摩糖尿病カンファランス

申込不要

開催日：平成30年7月25日（水）19:30～21:30

場所：立川グランドホテル 4階「カルロ」（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩2分）

参加費：500円

問合せ：大正富山医薬品（株）（担当：森田） TEL:080-1005-9475

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本医師会生涯教育制度：申請中

第10回 東京臨床糖尿病運動療法研究会

申込必要

テーマ：『運動療法の個別化』

開催日：平成30年8月1日（水）19:00～21:00

場所：東京医科大学病院 6階 本館臨床講堂（地下鉄丸の内線「西新宿駅」下車 徒歩1分）

申込：FAX：042-529-5436（7/25締切）

問合せ：（株）三和化学研究所（担当：古川） TEL:090-5860-6496

詳細資料の
同封あり参加費
無料

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

西東京CDEの会 第17回例会

申込必要

テーマ：『糖尿病性腎症の重症化予防』

開催日：平成30年8月25日（土）15:30～19:00

場所：府中市立中央文化センター ひばりホール（京王線「府中駅」下車 徒歩5分）

参加費：当法人会員 1,500円 / 一般 2,500円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（8/10締切）

詳細資料の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

第12回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

申込必要

テーマ：『高齢者のための運動療法～転倒防止のための運動療法～』

開催日：平成30年9月9日（日）8:30～17:00

場所：興和ビル 11階ホール（JR総武線「新日本橋駅」下車 徒歩1分）

参加費：当法人会員 5,000円 / 一般 7,000円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（9/2締切）

詳細資料の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な必修単位＜講義/実習＞：計6.3単位申請中

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



糖尿病学会2日目に開催された“Sunset RUN&WALK”に参加しました。東京タワーの麓、増上寺外周コースです。まずは僧侶の方のお話し、その後、体操のお兄さんによるラジオ体操（高校生以来？）、そしていよいよ3.3kmマラソンのスタートです。東京生まれ・育ちですが、こんな大都会のコースでのマラソンは初めてです。マラソン自体、人生2度目ですが。Sべ先生、写真ありがとうございました。（広報委員 小林 庸子）